

# レポート

ユン ジェホ

## 1. 概要

- 1) 名称：第10回国際福祉健康産業展 ~Welfare2007~
- 2) 開催期間：2007年 5月 18日(金)~5月 20日(日), 3日間
- 3) 主催：名古屋国際見本市委員会(構成：名古屋市, 愛知県, 名古屋商工会議所 等)
- 4) 行事内容：福祉用具及び健康関連製品, 器具, サービス及び講演会, シンポジウム
- 5) 出展規模：151所(会社及び団体)
- 6) ホームページ： <http://www.nagoya-trade-expo.jp/welfare/>

## 2. 参加内容

高齢者の分野と障害者の関連の商品が含まれて展示した展示会<sup>1</sup>.

日本の自動車の代表のメーカーが大部分参加して自社の介護車を積極的に広報した。車の後ろから車椅子が入れるエレベーター式と傾き式。そして、運転席が90° 曲がって車椅子は後ろに入れる式と車の上に設置している保管箱に折られる式が見せた。大部分のメーカーが似ている式で少し変わっている形で製品を開発して見せた(格メーカーの大部分の車に対応ができる)。

介護用品の中でベット、座便器、車椅子など実際介護される方と接触が多い製品の場合は木の素材のECO製品の方が人気が多かった。同じ性能の一般的な製品より30~40%の高かったが、展示会の参加者から高い興味をもらった。

健康補助食品及び体力増進器械<sup>2</sup>よりは高齢者及び障害者の在宅生活補助分野<sup>3</sup>が展示会の主流になっていた。これは在宅介護に視点を持っている日本の介護保険政策に合わせた、そんな需要があると見える。

## 3. 結論

日本の高齢産業は単純生活支援の目的だけではなく、デザインとECO産業の供給が積極的に進行していて、これは高齢産業のマーケットが成熟の段階に入ったと見える

---

<sup>1</sup> 高齢者、障害者が使いやすい商品は一般人と使いやすい意欲で嫉視している。

<sup>2</sup> リハビリテーションのサービス関連訓練器械、2006年介護保険改正によってリハビリテーションのサービスが広く拡大して日本には高齢者のために多様なリハビリテーションのサービス用の器械が開発している。

<sup>3</sup> インテリアの製品、家庭の中で設置ができるエスカレーター、ミニキッチン、ケアプラン作成プログラム等。

#### 4. 写真

